

令和5年度 学校評価表

( 中間・最終 )

学校名 三原市立大和中学校 校番( 30 )

a 学校教育目標	学び、高め合い、認め合う大和中生 ～夢や目標を抱き、地域・社会に貢献する 生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像)生徒が「大和中で学んでよかった」、保護者が「通わせてよかった」、地域にとって「地域の宝」であると思える学校
----------	---	----------------------	---

評価計画				自己評価						改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
豊かな心と健やかな体	確かな学力	基礎・基本の定着・向上を図り、活用する力を育成する。	学力を向上するため授業改善を進める。	①ルーブリックを活用し、生徒の資質・能力の高まりを見取ったり、授業を評価したりする。 ②「個別最適な学び」をすすめ、「選択肢」と「自己決定」のある単元開発を行う。 ③標準学力調査の偏差値40未満の生徒への個別指導を月に2回以上取り組む。	①80% ②100% ③80%	①92% ②37.5% ③92%	①92.6% ②100% ③94%	①115% ②100% ③117%	①A ②A ③A	①② 個別最適な学びの視点で授業改善することができた。また、単元開発した内容をレポートにまとめ、校内で交流することができた。 ③月2回の個別学習で、定期試験に向けての対策や練習問題を行い、類似問題で成果が出た生徒もいた。	①② 次年度も引き続き、「資質・能力の育成」と「選択肢と自己決定」を軸に授業改善を行う。特に、低学力層にあった選択肢の準備をすすめる。 ③クローズドブックを活用する等、個別学習の方法を検討し、個に応じた支援ができるようにする。	○			・落ち着いた環境づくりができています。主体的な学びの実現に向けて個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることが必要だと思う。 ・個に応じた支援、低学力層への取組は、大変だと思うが、少しでも効果があるように望む。 ・月2回の個別指導の成果が出ている。今後も個に応じた支援の継続を期待する。
	豊かな心と健やかな体	積極的な生徒指導の推進と心身の健康の増進を図る。	生徒理解に努め、生徒指導並びに生徒支援を充実させる。	①いじめアンケートの実施後に、個人面談週間を実施して生徒理解に努める。 ②SCと連携し教育相談の体制や取組を充実させ、不登校支援を進める。	100% 100%	100% 100%	100% 100%	100% 100%	A A	①いじめアンケートから、該当すると回答する生徒はいなかったが、保護者アンケートから「いじめを受けている・聞いたことがある」が3件あった。 ②生徒支援委員会は概ね毎週実施している。SCからの助言を得たり、SCによる全生徒対象の面談を計画的に実施したりして生徒理解に努めた。	①全員面談を行うとともに、「いじめを受けている・聞いたことがある」と回答した保護者へは直接連絡して確認した。不安な思いを聞き、職員で共有し対応した。今後も面談を継続していく。 ②専門的な視点で指導方法を見直すことが必要な生徒が多数在籍している。今後も、SCからの助言が必要である。	○			・いじめアンケートは生徒だけでなく、保護者からも回答が取れるので良いと思う。初期対応ができていていると思う。 ・アンケートを通して生徒や保護者との人間関係、信頼関係をしっかり構築する中で、取組を深めてほしい。 ・生徒の揺れ動く心情を受け止めてやる姿勢が見えてくる。 ・不登校児童生徒への対応については小中で情報交換しながら対応していきたい。 ・具体的な夢を挙げている生徒が8割いるのは良い。出前授業やキャリア教育の成果だと思う。 ・こども園から集団が変わらないということからの課題解決に向けて、エンカウンターの手法を取り入れたり、学級活動を充実することが必要だと思う。 ・少しでも体を動かす楽しさを意識させる取組を期待する。 ・ゲーム、スマホの利用時間については家庭との連携が大切である。 ・基本的な生活習慣を整えるためには、園小中が連携して今後も取組をしていくことが必要だと思う。
	豊かな心と健やかな体	体力づくりと心身の健康を維持する	自己実現力を高めるキャリア教育を充実させる。	①探究的・協働的な学びや外部人材の活用により、自己・他者理解を進め、自己を表現し行動する力を育てる。 ②小中が連携し、地域・企業と連携したキャリア教育のカリキュラムを開発し、実践する。	①80% ②80%	①76% ②86%	①78% ②73%	①98% ②91%	①B ②B	①自分を肯定的に捉える生徒がやや増加した。行事などでの成功体験の増加や、周りから評価してもらえる場(グループエンカウンター等)を設定した成果だと考えられる。 ②10月と比較すると減少したが、具体的な夢を挙げている生徒は8割程度いる。学年が上がるにつれて肯定的評価が高くなっている。	①継続して、他者からの肯定的評価をフィードバックする場(発表へのコメントなど)を設ける。 ②企業による出前授業や外部人材による授業を、色々な学年で実施することで、将来について考える機会を設ける。	○			
信頼される学校	地域・保護者と連携を深める。	郷土愛を育み、自治的活動を推進する。	①ふるさと大和を大切に地域貢献活動に取り組む。 ②生徒会活動、委員会活動を活性化させ、自治的な活動を進める。	①「運動することが好き」の生徒の割合【体育科】 ②強化週間における家庭でのゲーム・スマホ利用時間 2時間平均【保健】	80% 平均2時間を下回る	86% 2時間59分	89% 2時間43分	100%	A A	①前回の調査よりも肯定的な数値が上がった。コロナ禍の制限も緩和し、校外で運動に親しむ生徒が増加している。否定的な回答をした生徒は、苦手意識を持っている。 ②第2回元気ウィークは1月第3週に行った。第1回の平均利用時間より15分縮まり、令和4年度内閣府による調査結果、平均162.3分と同程度となった。1日平均4時間以上利用する者の割合が20.7%から14.8%となるなど、利用時間の多い者の割合が1、3年生において小さくなった。	①運動が苦手であっても、「楽しい」「好き」と思える取組を行う。 ②企業による出前授業や外部人材による授業を、色々な学年で実施することで、将来について考える機会を設ける。	○			・しっかりと生徒が地域の中で活躍していると思う。 ・先生方の健康が生徒の学習条件、生活条件に大きくかかわってくると思うので、お互いに声をかけながらやってください。 ・生徒主体の活動を特活の中で充実していくことは集団が変わらない学校にとっては特に必要だと思う。 ・生徒主体で行事をつくっていくのは力がつくし、自信にもつながっていると思う。
	業務改善を行い、働き方改革を進める。	業務改善について日課を見直すなど校内の体制やルールを整理し、改善を図る。 ・部活動休養日・定時退校日を計画、完全実施する。	○時間外勤務が月45時間以内の職員の割合(年平均)【教頭】	80%	72.6%	77.1%	96.8%	B	・定期テストの最終日に、採点等に係る時間を確保したのは業務改善につながった。 ・部活休養日を完全実施することができた。定時退校日は前日から提示するとともに職員朝会で呼びかけたが、行事や進路等で業務が重なるなどとして、完全実施できなかった。	・業務の偏りを減らすために、業務を学年や分掌等引き続き複数で分担し、定時退校できるようにしていく。	○				

【j: 自己評価 評価】A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成) < 100  
C: 60≦(もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【l: 学校関係者評価 評価】イ: 自己評価は適正である。  
ロ: 自己評価は適正でない。  
ハ: 分からない。